

IV-183

高齢者の事故事例の分析

東京都立大学 正 員 片倉正彦
東京都立大学 学生員 諸橋雅之

1. はじめに

今日では高齢者の問題がかなりクローズアップされているが、昭和62年度の運輸省の事業者の自動車事故報告書によると、歩行者、自転車等を相手とする事故（死傷事故）は1369件あり、そのうち被害者が60歳以上の事故は518件であり、全体の38%を占めている。特に死亡者の割合では約50%も占めており、この問題の重大さが裏づけられる。本研究では高齢被害者の事故を分析することによって、その特性を探ることを目的として行なった。

2. 解析の方法

昭和62年度に自動車運送事業者から運輸省へ提出された事故報告書より、被害者が60歳以上で死傷事故のデータについてのみ選びだし、解析に重要だと思われる項目をコーディングしてコンピュータ解析を行なった。

3. 発生時間帯

図1は被害者の年齢層別の事故発生の時刻分布を示している。60歳代、70歳代は午前中の9時～11時に事故発生のピークがあるのに対し、80歳代は6時～8時がピークとなっており、他の年齢層より時間帯が少しはやい。また、60歳代の被害者は他の年齢層に比較して夜間の事故が多いことがわかる。

4. 歩行者事故と自転車事故

図2は被害者の年齢層別の歩行者事故と自転車事故の比率を示したものである。60歳代、70歳代では自転車が約40%とかなりの割合を占めるが、80歳以上になると15%と小さい割合となる。

5. 事故発生地点

図3、4は事故発生地点の割合を歩行者事故、自転車事故に分けて、年齢層別に示したものである。歩行者事故は各年齢層とも車道での事故がいちばん多く約60%を占めている。自転車事故は車道と交差点の両方で多く発生しているが、年齢が上がるにしたがって車道の割合が高くなっている。

6. 被害者の行動

図5、6は被害者の直前の行動を歩行者事故、自転車事故に分けて、年齢層別に示したものである。

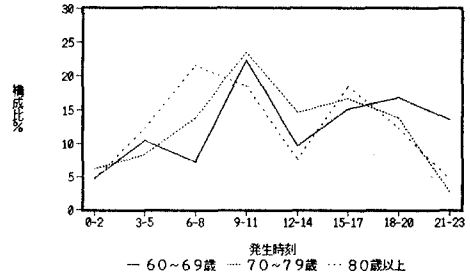


図1 年齢別事故発生の時刻分布

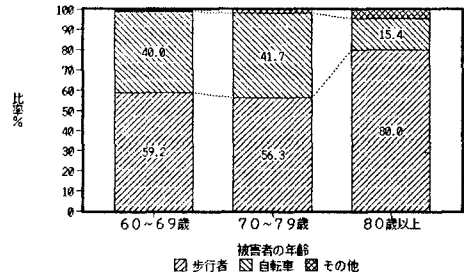


図2 歩行者事故と自転車事故の構成比

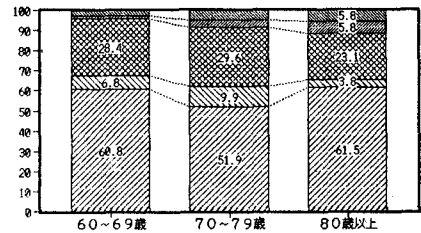


図3 事故発生地点（歩行者事故）

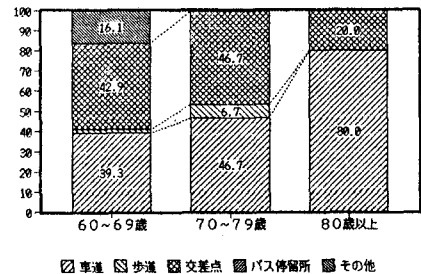


図4 事故発生地点（自転車事故）

る。歩行者事故では「横断中」の事故が最も多く40～50%を占めている。80歳以上では「飛び出し」や「進行中（対面・背面）」が増加している。自転車事故では「飛び出し」が最も多いが年齢が上がるとともに減少している。80歳以上では「急な進路変更」や「進行中（対面・背面）」の割合が増えている。

図7、8は上記の「飛び出し」がどこから行なわれたかを歩行者事故、自転車事故別に表わしたものである。歩行者事故では「横断歩道上での」飛び出しはほとんどなく、「歩道から」や「斜め飛び出し」の割合が多い。特に80歳以上では「歩道から」と「渋滞車両から」の割合が半分以上を占めている。一方自転車事故では60歳代、70歳代では「路地から」の飛び出しが最も多く30～40%を占めている。80歳以上ではデータが非常に少ないためこの図からはっきりしたことはわからない。

これらの分析結果から高齢者が歩道上を歩いたり、自転車に乗っているときはドライバーは十分注意することが必要であると思われる。

7. おわりに

今回の調査研究では、まず歩行者事故と自転車事故ではかなり違った傾向を示すことがわかった。歩行者事故と自転車事故では事故の状況がかなり違っているため、今後の研究では高齢者事故に限らず歩行者事故と自転車事故を分けて分析することが必要であろう。

また、被害者の年齢別にみると60歳代と80歳以上ではかなり違った傾向を示しており、それは特に自転車事故で顕著である。これは70歳代で体力的に変化が起こるためと考えられる。今後は高齢者の定義を何歳からにするかなどさらに分析を進める必要があると思われる。

<参考文献>

- 1) 運輸省地域交通局：自動車運送事業用自動車運転者実態調査報告書；昭和62年度
- 2) 国際交通安全学会：歩行者等事故に関する調査研究；昭和61年3月

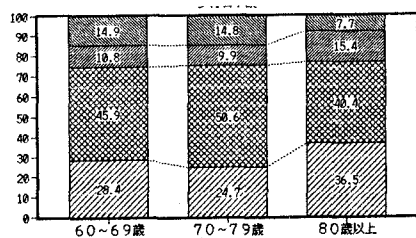


図5 被害者の直前の行動（歩行者事故）

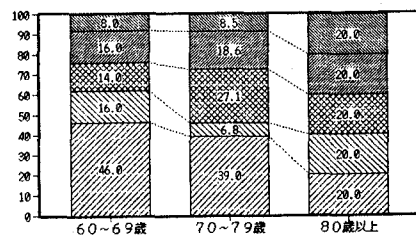


図6 被害者の直前の行動（自転車事故）

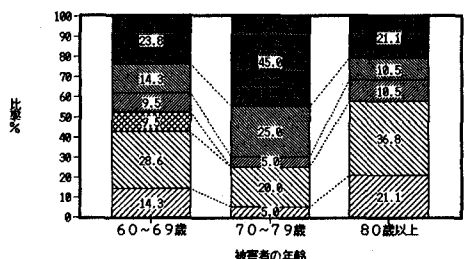


図7 飛び出し（歩行者事故）

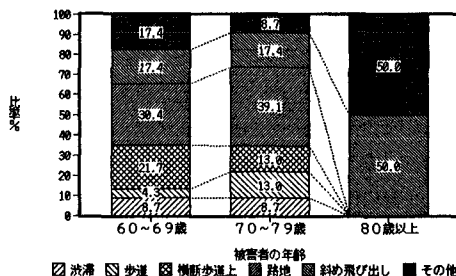


図8 飛び出し（自転車事故）